

若越郷土研究総索引(三)

自一四六号(第二六卷一号)
至一八一号(第三一巻六号)

A 通巻号別総目次

数字は各巻ごとの通し頁数

二六巻(昭和五六)

一四六号

脇本庄

小泉 義博 一

松平春嶽についての謎

杉本伊佐美 一一

敦賀県における旧藩蔵書

(1) 一四七号

杉原 丈夫 一三

周縁における同族神の祭

祀形態

金田 久璋 一五

敦賀県における旧藩蔵書

(2) 一四八号

杉原 丈夫 二八

福井の絵画史・原初絵画

及び大和絵前史

松村 忠祀 三一

遭難船と髻の奉納

刀禰勇太郎 三五

福井県郷土研究の動向

昭和五五年

舟沢 茂樹 四〇

向山の正月御神事(1)

杉本 寿 四二

敦賀県における旧藩蔵書

(3) 一四九号

杉原 丈夫 四五

越前保と杉崎三ヶ村(1)

小泉 義博 四七

山伏と定宿

桜井 帯刀 五六

向山の正月御神事(2)

杉本 寿 五九

橘曙覧歌集 脱落一首そ

の他

辻森 秀英 六〇

一五〇号

中根雪江名号考

伴五十嗣郎 六三

越前保と杉崎三ヶ村(2)

小泉 義博 六八

一五一号

葛原の御名代説の究明と

その周辺

原 健男 七九

若越郷土研究総索引(2)

二七巻(昭和五七)

八二

一五二号

河口・坪江庄の地名

白崎昭一郎 一

北陸道について

上杉 喜寿 一一

新光寺出土の石冠	山本 昭治	一五	配(1)	大原 陵路	八一	三国に残る御城米廻船難	面野 藤志	四〇
一五三号			「福井県の経塚」追録	山本 昭治	八八	破の記録(2)		
聞き書き抄	高岡喜代子	一七	「幸若舞曲研究」紹介と	久保 日参	九三	曲直瀬道三の「茶の湯起	岩治 勇一	四七
獅子渡り(福井市本堂町)	杉原 丈夫	二二	ともに	三田村保正	九五	請文」について		
伴信友とその和歌	辻森 秀英	二六	多田善四郎について			「昭和恐慌」下の福井県		
実明院功存について	杉本伊佐美	二九	二八卷(昭和五八)			の農民層分解について	三上 一夫	四九
一五四号			一五八号			朝日観音堂の梵鐘銘に就	久保 日参	五八
天明三年の出来事—大野			三国に残る御城米廻船難	面野 藤志	一	Dooff-Halma (大高)の	岩治 勇一	六二
盆地内—	坂田 玉子	三三	破の記録(1)	小泉 義博	八	蘭文跋文の再考	桜井 帯刀	六五
哥川の新資料	面野 藤志	四二	九里半街道と大杉・保坂	杉原 丈夫	一五	一六二号	久保 日参	七一
家久村新旧字名対照表	竹内伍兵衛	四五	関(中)	小泉 義博	一七	中世初期の高浜町	三上 一夫	七四
一五五号			三秀園・物産館の思い出	大原 陵路	二三	「朝倉叢書」と「朝倉家	杉本伊佐美	七七
橘曙覧翁短歌拾遺雑録	水島 直文	四九	(福井史話(2))	高岡喜代子	三〇	録」	小泉 義博	八一
福井史話	笈田 清士	五七	多田善四郎のこと	刀禰勇太郎	三三	若越諸藩の藩校教育の特	山下 英一	八九
聞き書き抄(2)	高岡喜代子	六二	一五九号			質	久保 日参	九三
一五六号			九里半街道と大杉・保坂	小泉 義博	一七	獅子と虎の話		
九里半街道と大杉・保坂			関(下)			一六三号		
関(上)	小泉 義博	六五	織田信長の第二次越前支	高岡喜代子	三〇	塩津街道と荒地中山関		
聞き書き抄(3)	高岡喜代子	七六	配(2)	高岡喜代子	三〇	グリフィスの化学実験室		
坂野二蔵のこと	坂野作三郎	七八	聞き書き抄(4)	刀禰勇太郎	三三	の写真について		
雨乞い民俗	杉本伊佐美	七九	一六〇号			朝日村志の復刻について		
一五七号			敦賀の釘鍛治					
織田信長の第一次越前支								

杉本五助について	杉本伊佐美	九五	宮内省御用写真師	丸木	利陽	光山 香至	五六	繼体天皇ご発祥に関する研究(2)	齋藤與次兵衛	二八
二九卷(昭和五九)			金津町南正田村落誌(3)	坂本 豊	六〇	一七二号		福井県下の「町村是」設定と現存状況	小谷 正典	三五
一六四号			物価の変動	杉本伊佐美	六三	河和田町の今昔	杉本伊佐美	一七三号	杉本伊佐美	四八
足代弘訓と東条義門	辻森 秀英	一	一六八号	刀禰勇太郎	六五	落の構造(1)	杉本 寿	一七四号	杉本 寿	五一
源義経の北国落と越中伝説	石崎 直義	七	鯖江藩における他国稼ぎの取締りについて	坂本 豊	七六	今南東郡・六新田木地村落の構造(1)	齋藤與次兵衛	研究(3)	齋藤與次兵衛	五七
出稼ぎ、行商の実態について	杉本伊佐美	一三	金津町南正田村落誌(4)	一六九号	一七四号	北陸広域自由民権の史的	三上 一夫	性格	三上 一夫	六七
足羽という地名	杉原 丈夫	一五	繼体天皇ご発祥に関する研究(1)	齋藤與次兵衛	八一	椰子の実とワタカ―鳥浜貝塚傍観記―	永江 秀雄	一七五号	永江 秀雄	七五
一六五号			トイレ雑考―若狭の農山村を中心にして―	小林 一男	八六	三國俳壇資料	面野 藤志	一七五号	面野 藤志	八一
白山山麓地帯の真宗発展と道場の研究(1)	坪内 晋	一七	我家にある古書類	杉本伊佐美	九四	今南東郡・六新田木地村落の構造(2)	杉本 寿	一七五号	杉本 寿	八五
道守・糞置両庄条里の元の把握	白崎昭一郎	二三	三〇卷(昭和六〇)			町村誌の誤記対策とニュー・メディアによる史料の再利用	春松 進一		春松 進一	九三
金津町南正田村落誌(1)	坂本 豊	二八	一七〇号			滝谷寺文書について	土屋 久雄		土屋 久雄	一九
一六六号			福井県下の地主制展開過程の一考察	三上 一夫	一	部 落	杉本 寿		杉本 寿	一四
朝日町原始遺跡及び其の遺物の一斑に関して	久保 日参	一八	若狭青葉周辺山麓の木地	杉本 寿	一四	一七一号				
金津町南正田村落誌(2)	坂本 豊	二九	部 落							
一六七号			滝谷寺文書について	土屋 久雄	一九					
白山山麓地帯の真宗発展と道場の研究(2)	坪内 晋	四九								

三一巻(昭和六一)

一七六号

中世後半の高浜について
鯖江市平等会寺蔵史料一

桜井 帯刀 一

一七七号

溝江文書と関ヶ原の役(1)
今南東郡・六新田木地村

土屋 久雄 一七

落の構造(3)

杉本 寿 二二

一七八号

足羽御厨(足羽庄)の伝
領について(上)

河村 昭一 三三

溝江文書と関ヶ原の役(2)
児童・幼児の遊戯唄―大

土屋 久雄 四二

正初期―

久保 日参 四九

一七九号

井上翼章について
足羽御厨(足羽庄)の伝

谷口 初意 五一

領について(中)

河村 昭一 五七

壬申戸籍と守札(氏子札)

(1)

春松 進一 六〇

明治末期の今立郡

杉本伊佐美 六五

一八〇号

足羽御厨(足羽庄)の伝
領について(下)

河村 昭一 六七

壬申戸籍と守札(氏子札)

春松 進一 七七

(2)

戦時下農村構造の再編に
ついて

三上 一夫 八三

今南東郡・六新田木地村
落の構造(4)

杉本 寿 九五

B 著者索引

題名の長いものは最初の八字で
切つてある。数字は巻数と頁数

A 行

巻 頁

石崎 直義 源義経の北国落と 二九 七

岩治 勇一 曲直瀬道三の「茶」 二八 四七

Doelf-Halma (大) 二八 六二

上杉 喜寿 北陸道について 二七 一一

笈田 清士 福井史話 二七 五七

三秀園・物産館の 二八 一三

大原 陵路 織田信長の第一次 二七 八一

織田信長の第二次 二八 二三

福井県下の「町村」 三〇 三五

哥川の新資料 二七 四二

三国に残る御城米 二八 一

三国に残る御城米 二八 四〇

三国俳壇資料 三〇 八一

周縁における同族 二六 一五

足羽御厨(足羽庄) 三一 三三

足羽御厨(足羽庄) 三一 五七

足羽御厨(足羽庄) 三一 六七

「幸若舞曲研究」 二七 九三

朝日観音堂の梵鐘 二八 五八

「朝倉叢書」と「 二八 七一

朝日村志の復刻に 二八 九三

朝日町原始遺跡及 二九 一八

鯖江市平等会寺蔵 三一 一三

児童・幼児の遊戯 三一 四九

脇本庄 二六 一

越前保と杉崎三ヶ 二六 四七

越前保と杉崎三ヶ 二六 六八

九里半街道と大杉 二七 六五

カ 行

金田 久璋 二六 一五

河村 昭一 三一 三三

久保 日参 二七 九三

久保 日参 二七 九三

久保 日参 二七 九三

久保 日参 二七 九三

久保 日参 二七 九三

久保 日参 二七 九三

久保 日参 二七 九三

久保 日参 二七 九三

久保 日参 二七 九三

久保 日参 二七 九三

久保 日参 二七 九三

久保 日参 二七 九三

久保 日参 二七 九三

九里半街道と大杉	二八	八							
九里半街道と大杉	二八	一七							
塩津街道と荒地中	二八	八一							
小林 一男	二九	八六	杉本伊佐美						
トイレ雑考―若狭	二九	八六							
齋藤與次兵衛	二九	八一							
継体天皇ご発祥に	三〇	二八							
継体天皇ご発祥に	三〇	二八							
継体天皇ご発祥に	三〇	二八							
天明三年の出来事	二七	三三							
坂野二蔵のこと	二七	七八							
坂野 玉子	二七	三三							
坂野作三郎	二七	七八							
坂本 豊	二九	二八							
金津町南正田村落	二九	二九							
金津町南正田村落	二九	二九							
金津町南正田村落	二九	二九							
金津町南正田村落	二九	二九							
金津町南正田村落	二九	二九							
中世初期の高浜町	二八	六五							
中世後半の高浜に	三一	一							
山伏と定宿	二六	五六							
河口・坪江庄の地	二七	一							
道守・糞置両庄条	二九	二三							
敦賀県における旧	二六	一三							
敦賀県における旧	二六	二八							
敦賀県における旧	二六	四五							
高岡喜代子	二七	一七							
聞き書き抄	二七	一七							
獅子渡り―福井市	二七	二二							
多田善四郎のこと	二八	一五							
足羽という地名	二九	一五							
松平春嶽について	二六	一一							
実明院功存について	二七	二九							
雨乞い民俗	二七	七九							
獅子と虎の話	二八	七七							
杉本五助について	二八	九五							
出稼ぎ、行商の実	二九	一三							
物価の変動	二九	六三							
我家にある古書類	二九	九四							
河和田町の今昔	三〇	四八							
明治末期の今立郡	三一	六五							
向山の正月御神事	二六	四二							
向山の正月御神事	二六	五九							
若狭青葉周辺山麓	三〇	一四							
今南東郡・六新田	三〇	五一							
今南東郡・六新田	三〇	八五							
今南東郡・六新田	三一	二二							
今南東郡・六新田	三一	九五							
聞き書き抄(2)	二七	六二							
聞き書き抄(3)	二七	七六							
聞き書き抄(4)	二八	三〇							
竹内伍兵衛	二七	四五							
谷口 初意	三一	五一							
辻森 秀英	二六	六〇							
伴信友とその和歌	二七	二六							
足代弘訓と東条義	二九	一							
溝谷寺文書について	三〇	一九							
溝江文書と関ヶ原	三一	一七							
溝江文書と関ヶ原	三一	四二							
坪内 晋	二九	一七							
白山山麓地帯の真	二九	四九							
白山山麓地帯の真	二九	四九							
遭難船と鬻の奉納	二六	三五							
敦賀の釘鍛冶	二八	三三							
鯖江藩における他	二九	六五							
永江 秀雄	三〇	七五							
椰子の実とワタカ	三〇	七五							
原 健男	二六	七九							
葛原の御名代説の	二六	七九							
春松 進一	三〇	九三							
町村誌の誤記対策	三〇	九三							

壬申戸籍と守札(1)	三一	六〇
壬申戸籍と守札(2)	三一	七七
伴五十嗣郎	二六	六三
中根雪江名号考	二六	四〇
舟沢 茂樹	二六	四〇

マ行

松村 忠祀	福井の絵画史	原	二六	三一
三上 一夫	「昭和恐慌」下の		二八	四九
	若越諸藩の藩校教		二八	七四
	福井県下の地主制		三〇	一
	北陸広域自由民権		三〇	六七
	戦時下農村構造の		三一	八三
水島 直文	橘曙覧翁短歌拾遺		二七	四九
三田村保正	多田善四郎について		二七	九五
光山 香至	宮内省御用写真師		二九	五六

ヤ行

山下 英一	グリフィスの化学	二八	八九
山本 昭治	新光寺出土の石冠	二七	一五
	「福井県の経塚」	二七	八八
	※ ※ ※		
若越郷土研究総索		二六	八二

(春松進一氏作成)